

【統一様式】

阿蘇医療センターが担う 役割について

令和5年3月 阿蘇医療センター

1 現状と課題

◎当院の目標

当院は、平成26年8月に新築移転し開院しましたが、その前身である阿蘇中央病院の開設以来、阿蘇地域における公立病院として地域住民の健康維持と福祉の向上に重要な役割を果たしてきました。

平成28年4月の熊本地震発生時には、地域災害拠点病院として機能し、また交通インフラ障害による熊本市内での受診困難を回避するため複数の特殊専門外来も開設しました。新型コロナウイルス感染症に関しては、令和2年2月に熊本県で1例目の感染者が確認されて以降、今日まで第8波となる感染拡大を繰り返していますが、第二種感染症指定医療機関として、陽性患者の受入をはじめ、時間外救急対応、発熱外来診療、ワクチン接種、他の医療機関・高齢者施設等への指導・支援介入、地域住民への感染対策の啓発等に取り組んでいます。

今後も政策医療及び急性期・回復期医療への対応を中心に、地域の中核的な役割を果たしていくとともに、2025年問題を前提とした高齢者医療・予防医療機能・在宅医療支援に係る機能充実（特に多職種チーム医療活動を主体に）のほか、医療DXによる機能整備、医療人育成、住民向け啓発活動等に取り組み、地域にとって必要とされる公立病院として存続することを目指しています。

1 現状と課題

◎基本理念

本院は、地域の中核病院として、地域の医療機関や関連施設と連携を図りながら、患者の視点に立った医療の提供を実践し、地域住民の健康の維持と福祉の向上に貢献する。

◎基本方針

- 1 地域住民の希望、期待、要求に対応した適正な医療の提供
- 2 生命の尊重を基本とした安全安心で良質な医療の提供
- 3 医学・医療の進歩に沿った知識・技術の習得と医療水準の向上

1 現状と課題

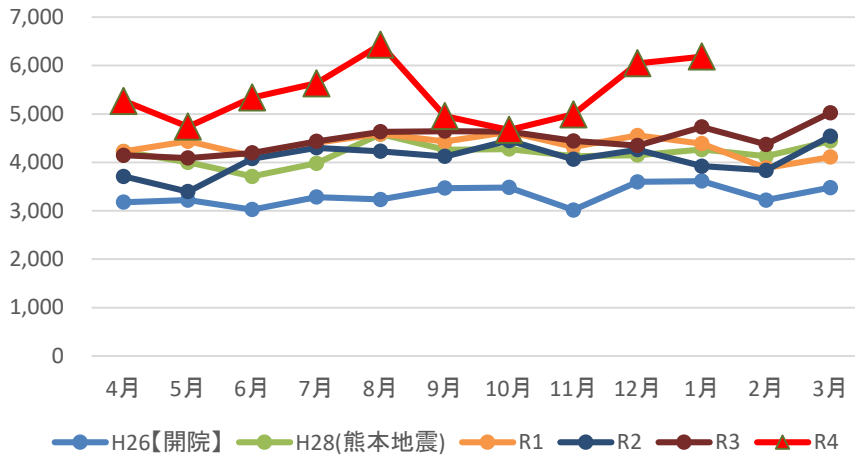
【基礎情報】

- ◎病床数 一般病床120床・感染症病床4床 計124床
(内訳 急性期一般入院料4：103床、地域包括ケア：21床)
- ◎診療科 内科、脳神経外科、循環器内科、小児科、脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、消化器外科、リウマチ膠原病内科、乳腺内分泌外科、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、腫瘍内科、消化器内科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、婦人科、皮膚科、歯科口腔外科
【全20診療科 +総合診療+小児科専門外来+肝疾患専門外来+もの忘れ外来、人工透析】
- ◎主な診療実績（令和3年度実績）
- ・1日平均外来患者数：222人（年間延べ53,697人）
 - ・1日平均入院患者数：60人（年間延べ21,745人）
 - ・病床稼働率：48.9% ・平均在院日数：15.5日
 - ・救急患者数：3,377人（うち救急搬送受入患者数：958人）
 - ・人工透析：4,106件 ・各種健診：2,632件

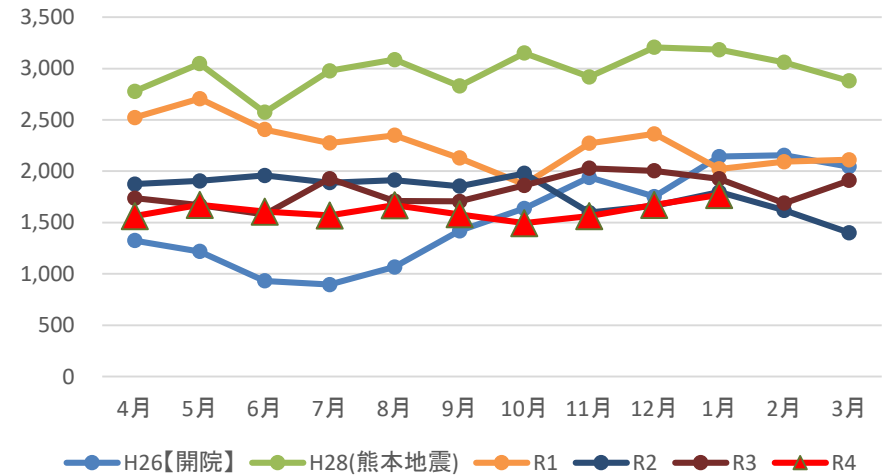
1 現状と課題

【診療実績】

外来患者数の推移



入院患者数の推移



	外来患者数	入院患者数	救急患者数	病床稼働率	平均在院日数	紹介率	逆紹介率	手術件数	カテーテル検査実施件数
R元年度	52,106人	27,119人	4,130人	61.7%	14.0日	37.4%	40.5%	146件	77件
R2年度	48,915人	21,446人	3,219人	49.0%	14.1日	42.6%	44.9%	136件	52件
R3年度	53,697人	21,745人	3,377人	48.9%	15.5日	41.9%	39.3%	134件	43件
	CT撮影	MRI撮影	透析件数	リハビリ単位数	臨床検査数	内視鏡検査数	超音波検査数	人間ドック	
R元年度	3,728件	2,405件	3,513件	39,372件	102,791件	879件	2,223件	175件	
R2年度	3,531件	2,184件	3,767件	33,513件	102,320件	844件	2,215件	180件	
R3年度	3,909件	2,392件	4,106件	46,306件	118,168件	886件	2,623件	186件	

1 現状と課題

【職員数】

(令和5年1月現在)

職種		常勤	非常勤	計	職種		常勤	非常勤	計
医師		11	28	39	看護部	看護師	81	9	90
薬剤師		6	1	7		准看護師	1	2	3
臨床検査技師		7		7		看護補助者		1	1
医療技術部	診療放射線技師	7		7	事務部	社会福祉士	3		3
	理学/作業療法士	13		13		医師事務 作業補助者	1	1	2
	言語聴覚士	1		1		事務	12	5	17
	臨床工学技士	4		4		労務	2		2
	管理栄養士	2	1	3	その他			2	2
					合計		151	50	201

1 現状と課題

【主なスタッフの認定状況】

3学会合同呼吸療法認定士	3名	X線CT認定技師	1名
KG(看護現場)プラクティショナー	1名	救急撮影認定技師	1名
熊本県肝疾患コーディネーター	3名	超音波検査士	2名
日本糖尿病療養指導士	2名	日本薬病院薬学認定薬剤師	2名
熊本地域糖尿病療養指導士	14名	認定実務実習指導薬剤師	1名
5学会合同認定透析療法指導看護師	1名	公認心理師	2名
災害支援ナース	4名	がん化学療法認定看護師	1名
心臓リハビリテーション指導士	2名	感染管理認定看護師	2名
心不全療養指導士	2名	認知症看護認定看護師	2名
第2種滅菌技士	2名	日本DMAT隊員(医師1名含む)	6名
人間ドック健診食生活改善指導士	2名	認定病理検査技師	1名
認知症ケア専門士	2名	福祉コーディネーター	1名
認定医療メディエーターB(認定医療対話推進者)	1名	フットケア指導士	1名
認定看護管理者	1名		

1 現状と課題

【主な指定・告示・認定】

H8.5.10(継続H26.8.6)	地域災害拠点病院指定
H11.4.1	第二種感染症指定医療機関指定
H16.3.31	臨床研修指定病院[協力型]指定
H21.3.23(継続H26.8.11)	救急指定病院告示
H25.3.1	厚生医療施設[腎臓：透析]指定、H26.12.1[心臓脈管外科]指定
H26.3.13	熊本DMA T指定病院指定
H27.1.1	難病指定病院指定
H27.1.1	小児慢性特定疾病指定医療機関指定
H27.12.29	脳卒中急性期拠点病院及び回復期医療機関指定
H28.2.29	急性心筋梗塞急性期拠点病院及び急性心筋梗塞回復期医療機関指定
H28.4.1	日本循環器学会専門医研修関連施設認定
H28.4.1	日本神経学会専門医制度における教育関連施設認定
H28.7.21	地域包括医療・ケア施設認定
H28.11.1	地域密着型リハビリテーションセンター指定
H29.1.1	日本医療薬学会認定薬剤師制度による研修施設認定
H29.8.2	日本脳神経外科学会専門医認定制度に基づく研修プログラム参加施設認定

1 現状と課題

【主な指定・告示・認定】

H30.1.4 (2回目R5.1.4)	日本医療機能評価機構病院機能評価認定
H30.3.30	へき地医療拠点病院指定
H31.3.27	熊本県地域医療拠点病院指定
H31.4.1	熊本県指定自立支援医療機関指定
H31.4.1	阿蘇中部地域在宅医療サポートセンター(連携型)指定
R元.6.10	熊本県肝疾患診療連携ネットワークの肝疾患専門医療機関登録
R元.9.1	日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定
R2.4.1	熊本県がん診療連携拠点病院指定
R2.4.1	阿蘇中部地域在宅医療サポートセンター(基幹型)指定
R3.1.1	日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設証認定
R3.9.17	熊本県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業医療機関指定
R3.10.28	指定障害福祉サービス事業者(障がい児(者)レスパイト入院)指定

1 現状と課題

【阿蘇医療センターが担う政策医療《5疾病・5事業+2》】

◇5疾病

がん	<ul style="list-style-type: none">・R2年4月から熊本県指定がん診療拠点病院に指定されています。・がん化学療法認定看護師1名が在籍しています。・H29年6月に血液内科外来、H30年8月に腫瘍内科外来を、またH31年2月に歯科口腔外科を開設し、医科歯科連携に取り組んでいます。・H30年4月から、院内に「阿蘇がんサロンえがお」を開設しました。・H31年1月から、がん相談支援センターを実施・R元年5月から、緩和ケアチームを発足。がん相談支援センターを開設しました。
脳卒中	<ul style="list-style-type: none">・診療体制：専門医2名《常勤医1名・非常勤1名(週1回)》・脳卒中療養相談士1名が在籍しています。・H27年12月から脳卒中急性期拠点病院及び回復期医療機関の指定を受けています。・R元年9月から日本脳卒中学会一次脳卒中センターの認定を受けています。・熊本大学附属病院と連携し、24時間対応のt-PA治療を行っています。・熊本赤十字病院と連携し脳卒中医療推進体制「JUST-7」の整備を進めています。
急性心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none">・診療体制：専門医4名《常勤医2名・非常勤1名(週1回)》・心不全療養指導士2名が在籍しています。・H28年2月から急性心筋梗塞急性期拠点病院及び急性心筋梗塞回復期医療機関の指定を受けています。・H28年4月から日本循環器学会専門医研修関連施設の認定を受けています。・心臓カテーテル検査・治療及びペースメーカー植込術・ペースメーカー遠隔診断を行っています。・R3年9月から、心不全チームを発足しました。・休日の緊急対応が課題です。
糖尿病	<ul style="list-style-type: none">・診療体制：専門医2名《非常勤2名(週2回)》・日本糖尿病療養指導士2名と熊本地域糖尿病指導士14名が在籍しています。・H27年4月から、専門外来(重症患者)を開設しました。・H30年6月から、NST(栄養サポート)チームを発足しました。・H30年9月から、教育入院を始めました。
精神疾患	(阿蘇やまなみ病院と連携)

1 現状と課題

◇ 5 事業 + 2

救急医療	<ul style="list-style-type: none">・H26年8月から救急告示病院として救急搬送患者の受入れをしています。・病院群輪番制病院として他の4病院と協力し、二次救急医療を担っています。・院内で、BLS(一次救命処置)・ACLS(二次心肺蘇生法)の講習を行い、救急対応の普及に努めています。 (R5.1現在 コメディカル全体の資格取得率: BLS 58.8%・ACLS 12.4%)・医師の時間外労働規制に備えて平日夜間及び休日の救急外来の診療体制確保が求められています。
災害医療	<ul style="list-style-type: none">・H26年8月から地域災害拠点病院の指定を受けています。・院内にDMAT2チームを保有し、院長が熊本県地域災害医療コーディネーターに就任しました。・平成28年熊本地震では、震災直後から救急搬送患者の受入れを行い、全国から参集するDMAT【33隊】の拠点となりました。また当院内にADRO(阿蘇地域災害保険医療復興連絡会議)が設置されました。・地震後、熊本市内等の医療機関への通院困難者のために各種専門外来を開設しました。・H29年3月にBCP(業務継続計画)を策定していますが、内容の更新を図ります。
へき地医療	<ul style="list-style-type: none">・H30年3月からへき地医療拠点病院の指定を受けています。・波野診療所を併設し、当院常勤医師2名と歯科医師1名を派遣しています。(週2日)・産山村診療所に当院常勤医師を1名派遣しています。(月1回)・医師不足により、派遣医師の確保に苦慮しています。
周産期医療	(阿蘇温泉病院と連携)
小児医療 (小児救急医療)	<ul style="list-style-type: none">・H27年1月から小児慢性特定疾病指定医療機関の指定を受けています。・診療時間を延長(週4日/夕方1時間)しています。・H28年8月から小児PTSD外来、特殊疾患外来を開設しています。・R3年11月から障がい児(者)のレスパイト入院受入れをしています。・救急外来対応、入院対応の拡充が求められています。

1 現状と課題

◇ 5 事業 + 2

在宅医療	<ul style="list-style-type: none">・R2年4月から阿蘇中部地域在宅医療サポートセンター(基幹型)に指定されています。・在宅医療相談員1名が在籍し、地域医療連携部と協働し家族看病のほか、ケアマネジャーや訪問看護といったサービス提供者からの相談、情報提供、環境整備などの相談に対応しています。・地域の医療・介護関係者向けの研修会の開催や、地域住民に向けた終末期医療に関する啓発活動の機会を設け終活ノートの紹介などを行っています。・認知症看護認定看護師2名が在籍し、平成29年から多職種による認知症ケアチームを設置し、認知症の対策にも取り組んでいます。・R5年10月からもの忘れ外来を開設(月3回)しています。						
新興感染症 拡大時の医療	<ul style="list-style-type: none">・H11年4月から第二種感染症指定医療機関の指定を受けています。・陰圧管理機能を備えた感染症病床4床を備えています。・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として即応病床を常時6床を確保し、緊急時には9床を確保して入院受入しています。・PCR・抗原検査態勢を整え、土日祝日を含む365日の発熱外来検査診療を行っています。・感染管理認定看護師2名が在籍し、院内での感染防止対策に当たるとともに、陽性者が確認された他の医療機関や高齢者福祉施設等に派遣し、阿蘇保健所と連携して指導助言等対応にあたっています。・新型コロナワクチン接種については、一般接種(12歳以上)、小児(5-11歳)、乳幼児(6か月-4歳)のすべての接種に対応しています。 <p>※新型コロナウイルス感染症対応実績【R5年1月末現在】</p> <table><tr><td>入院患者数</td><td>185人</td><td>発熱外来診療</td><td>7,620人</td><td>ワクチン接種</td><td>7,909人</td></tr></table>	入院患者数	185人	発熱外来診療	7,620人	ワクチン接種	7,909人
入院患者数	185人	発熱外来診療	7,620人	ワクチン接種	7,909人		

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(1) 地域医療構想を踏まえた阿蘇医療センターの果たすべき役割

当院は熊本県地域医療再生計画事業のもとに、○救急医療機能の充実、○地域完結型医療の推進、○脳疾患・心疾患治療体制の整備、○健診業務の充実 を目標として、平成26年8月に阿蘇医療圏の中核病院として開院しました。

その後、医師及び関係スタッフの確保と並行して診療体制を整え、この目標達成を図り、併せて政策医療や感染症医療の機能も充実させ、平成28年熊本地震や新型コロナ下でも拠点病院としての役割を果たしてきています。

現在も常勤医師は不足していますが非常勤医師の支援により、医科・歯科の専門医療の提供体制を図り、一方で今後の医療需要の変化に対応するため医療技術職員の確保・人材育成にも注力し、多職種協働による多様なチーム医療活動に取り組んでいます。

医師の働き方改革の適用後や地域医療構想調整後においては未だ不透明な部分もありますが、政策的事項・医療DX・地域的医療需要などの変化に適応できるよう対応していきます。

(ア) 救急医療機能の充実

- 二次救急医療体制の維持
- 高齢者の救急医療体制の整備
- 小児疾患に係る救急医療体制の維持

(イ) 脳疾患・心疾患治療体制の機能強化

- 熊本大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センターの拠点病院として連携
- 病院前脳卒中病型予測ツール【JUST-7スコア】活用による迅速搬送の取り組み
- 心不全チームの活動推進

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(1) 地域医療構想を踏まえた阿蘇医療センターの果たすべき役割

(ウ)がん診療体制の充実	○県内がん診療連携拠点病院との連携 ○緩和ケア研修会開催と地域医療関係者のスキル向上 ○子宮頸がん等の予防啓発
(エ)医療提供機能の整備強化	○代謝内科・消化器内科・腎臓内科の常勤専門医の確保(政策医療機能と連動) ○高齢者医療に係る機能強化(認知症・骨折予防・口腔ケア・終末期医療等)
(オ)健診機能の充実	○がんや生活習慣病の予防や早期発見の啓発 ○糖尿病・肝疾患の重症化予防の強化(脂肪肝プロジェクトによる受診勧奨) ○コロナ下での検診延期・受診控えによる健康被害防止の啓発
(カ)在宅医療機能の充実	○医療と介護の連携体制の整備 ○多職種協働の在宅医療体制の整備
(キ)医療情報管理の環境整備 (医療DX)	○利用者向けサービスと職員の情報共有・業務効率化の推進 (AI問診・患者検索システム・ナースボード・服薬指導・栄養指導等) ○くまもとメディカルネットワーク等地域医療連携システムの利用促進 ○サイバーセキュリティ対策の充実確保
(ク)医療需要に則した人材育成	○特定看護師(特定行為)、認定看護師、がん薬物療法専門薬剤師、糖尿病療養指導士、公認心理師、脳卒中療養相談士、心不全療養指導士、両立支援コーディネーター、骨粗鬆症マネージャー、心臓リハビリテーション指導士、がん相談支援センター相談員等の育成

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

地域包括ケアシステムについては、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されることを目途に、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて構築していくことが求められています。

当院は、急性期を担う地域中核病院として、迫る超高齢化社会に向け高齢者医療に必要な機能整備も図り、他の医療機関との機能分担及び連携を基本に、地域医療連携部・在宅医療サポートセンターを中心に急変時対応に努めるとともに、がん診療の緩和ケアチームをはじめ、認知症ケアチーム・心不全チーム・骨折リエゾンサービスチーム等の多職種によるチーム医療が入退院支援・療養支援活動を展開しています。

同センター事業においては、阿蘇在宅医療システム研究会との協働活動を経て在宅医療と介護の機能の相互補完が行われることにより、地域包括ケアシステムの形成を後押しすることにもなっています。

患者が退院後も介護・福祉への切れ目のないケアを受けられるよう、地域包括支援センターをはじめ地域の病院・診療所・薬局・看護・介護等に係る施設間・救急隊・行政との協働のもと、危機発生時を含めた多職種・異業種間の多様かつ横断的連携を図り、患者情報の提供・共有や退院時カンファレンス等の取り組み等を行っていくこととします。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(3) 治療と社会生活の両立支援

がん・心不全・脳卒中等、医療技術の向上により、疾病の早期発見とともに病院での診療は「入院・治療をして終わり」という時代は終わり、入院前からの医療介入の大切さとともに、退院後の様々な悩みを持つ患者に対して、多職種 of 医療従事者がそれぞれの専門的立場から、入院前には不安を和らげ、退院後も丁寧な生活指導・相談対応を行うことが求められています。

当院では、治療と仕事の両立を支援する両立支援コーディネーター3名をはじめ、公認心理師2名、心不全療養指導士2名、脳卒中相談士1名による相談等体制を整え、多職種によるチーム医療活動とともに、社会復帰へのトータルサポートを進めていきます。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

(4) 新興感染症等の感染拡大時における役割

新型コロナウイルス感染症対応で得られた情報・知見を基に、新型コロナの5類移行後の体制整備や感染対策マニュアルの逐次改訂・BCP策定等を推進するとともに、次期改正感染症法及び政策医療6事業の「新興感染症対応」の要件整備に対応して、当院では感染防止対策室に配置する専任の感染管理認定看護師2名を中心に多職種編成の感染制御チームが活動を展開しています。この活動を評価する感染対策向上加算1の算定要件である「他の医療機関と連携した年4回のカンファレンス」も実施しています。

新型コロナ下では、発熱外来診療(PCR等検査実施)、陽性患者受入れ、救急外来診療、他医療機関・高齢者施設等への感染対策指導介入、ワクチン接種等に熊本県をはじめ、関係機関の指導支援のもとで対応してきましたが、予測不可能なことや再考すべき課題もありました。

今後は、感染管理認定看護師をはじめとする多職種の経験則を活かし、新興感染症発生時における医療関係各団体・医療機関・高齢者施設・救急隊・行政等の関係機関の連携や啓発のあり方をさらに検討していきます。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(令和5年)	2025年(令和7年)
高度急性期	0	0	0
急性期	120	120	120
回復期	0	0	0
慢性期	0	0	0
その他(感染症)	4	4	4
合計	124	124	124

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

阿蘇医療圏の中核病院としての役割を果たしていくため、今後も政策医療(5疾病・5事業+2)を中心に、常勤医師の増と機能強化を図り、専門医療提供を継続することが求められていますので、現在の病床数の維持を必要とします。

熊本県地域医療再生計画事業の「○救急医療機能の充実、○脳疾患・心疾患治療体制の整備、○健診業務の充実、○地域完結型医療の推進」といった当初目的については、今日までにおおよそ達成してきているものの引き続き整備強化の途にあります。

今後、急性期医療機関として、地域の医療需要の変化にも対応した「地域完結型医療」を推進するためには、常勤医師の確保・機能集約化・高度急性期医療機関を含めた広域な連携(多施設協働)・多様なチーム医療推進等を図っていく必要があります。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 2023年 (R5年1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、脳神経外科、 循環器内科、小児科、 脳神経内科、整形外科 リハビリテーション科、消化器外科 リウマチ膠原病内科 乳腺内分泌内科 糖尿病・代謝・内分泌内科 血液内科、腫瘍内科 消化器内科、呼吸器内科、 耳鼻咽喉科、腎臓内科、 婦人科、皮膚科、 歯科口腔外科 【全20診療科＋総合診療＋小 児科専門外来＋もの忘れ外来、 人工透析】	同左	地域中核病院として地域の需要に 応えるため ①高度急性期医療機関と連携した、がん、 脳・心疾患、救急医療への対応 ②地域の特徴的疾患（糖尿病、腎臓疾患 等）への対応 ③高齢者の特徴的かつ複合的疾患（消化 器疾患、認知症、骨折、歯科口腔外科疾 患、在宅医療、人生の最終段階における 医療等）への対応 ④総合診療・へき地医療・小児疾患に係 る医療提供機能の維持 が必要であり、当面、糖尿病・代謝・内分 泌内科、消化器内科、腎臓内科、放射線 科の常勤専門医の充足を図る必要がある。
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点 2022年 (R5年1月時点)	2025年
①病床稼働率	45.6%	90.0%以上
②紹介率	24.5%	50.0%以上
③逆紹介率	19.2%	50.0%以上

※ 令和5年1月時点では、新型コロナウイルス感染症病床確保のため、一般病床120床のうち40床を空床化しています。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組み】

①地域医療連携の強化	<ul style="list-style-type: none">・常勤医師の医師会入会(11名中8名入会)・地域の病診・医科歯科・薬薬・医療介護の連携の推進・くまもとメディカルネットワークの同意取得推進・開放型病床の活用促進(地域完結型医療の推進)・地域医療連携部と在宅医療サポートセンターを中心とした関連機関との情報共有化の推進
②脳・心疾患治療体制の強化	<ul style="list-style-type: none">・熊本大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センターとの連携・病院前脳卒中病型予測ツール(JUST-7スコア)(迅速搬送)の活用推進・心不全チームの医療活動の推進・脳卒中療養相談士等による相談窓口と医療チームの設置
③がん診療体制の充実	<ul style="list-style-type: none">・常勤専門医の確保・高度急性期医療機関との連携・緩和ケアチームの医療活動推進・がんの早期発見・治療に係る啓発活動(特に女性の疾患)
④糖尿病・腎疾患対策	<ul style="list-style-type: none">・常勤専門医の確保・行政と連携した重症化予防の推進(検診情報の共有等)・栄養サポートチームの活動強化・教育入院の推進

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組み】

⑤肝疾患対策	・肝疾患専門外来の継続 ・脂肪肝プロジェクトの推進(早期発見と治療サポート)
⑥高齢者疾患の対策	・内科・総合診療体制の整備 ・認知症サポートチームの活動促進ともの忘れ外来の連携 ・骨折リエゾンサービスチームの活動促進(再骨折予防等) ・在宅医療サポートセンターと地域医療連携部の協働 ・地域の医療機関・高齢者福祉施設・行政等との連携
⑦医療DXを通じたサービスの効率化・質の向上	・AI問診票、ナースボード(服薬・栄養管理を含む)、患者検索システム、健診機能システム等の整備 ・情報共有による業務効率化と医療の質向上の推進 ・マイナンバーカードの利活用促進と全国医療情報プラットフォーム等国の進める医療DX・データヘルス改革の取り組み対応 ・サイバーセキュリティ対策の充実

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【課題】

①医師確保	・糖尿病代謝内科・消化器内科・腎臓内科・放射線科の常勤専門医の早期充足
②地域医療構想への対応	・地域調整会議の合意をふまえた医療機能の整備 ・医師派遣の調整
③高齢者の救急医療への対応	・後期高齢者の増加に伴う救急医療体制の整備 ・高齢患者のACP※・DNR※の判断(あるいは救急不搬送とするかの判断)の共有化 ・働き方改革と連動した時間外救急搬送体制の検討 ・住民への啓発と地域関連機関との連携 ※ACP(Advance Care Planning): 将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセス。 ※DNR(Do Not Resuscitation): 尊厳死の概念に相通じるもので、癌の末期、老衰、救命の可能性がない患者などで、本人または家族の希望で心肺蘇生法(CPR)を行わないこと。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【医師の時間外労働の上限規制適用に向けた取組み】

熊本県医療勤務環境改善センターの支援のもと、「勤務環境改善マネジメントシステム」を導入し、令和3年度から特に医師の労働時間短縮（負担軽減）を軸に改善計画を策定し、実行と評価を重ねてきています。

また、令和4年11月には院長として日本医師会の「医療機関勤務環境評価センターサーベイヤー」資格も取得。全職員の意識の醸成とともに、適正な労務管理に係る対処法・評価法を理解し職員の研修会も計画しています。

当院は二次救急医療機関として、休日夜間も患者受入を継続して行う必要があり、休日夜間の診療を担う常勤医師の確保に努めるとともに、受診者がまばらとなる深夜帯については、「宿日直許可」をうけ「勤務間インターバル9時間」の確保とともに、他の医療機関から派遣勤務する非常勤医師の休日夜間の派遣が継続されるよう、派遣元医療機関等と連携し、休日夜間の医療提供体制の確保に取り組めます。

また、特定行為研修を修了した特定看護師の育成を図るなど、看護師・技師等へのタスクシフト・シェアや、オンライン問診等の医療DX導入等による業務効率化の取り組みを進めます。

取り組みの円滑な達成のためには、医療の応需双方の信頼に基づいた相互理解が重要であり、患者・家族側の理解協力醸成のため、制度的な変更について、例年開催している市政報告会や市民公開講座等で啓発に努めます。

4 その他特記事項

(1) 教育活動

阿蘇医療圏の医療水準の向上並びに当院職員の資質向上を図るため、臨床研修医（初期（歯科を含む）・後期）をはじめ看護師・薬剤師・技師（士）・療法士・栄養士の養成施設の臨床実習、救急救命士の病院実習の受入れのほか、医学部学生の早期臨床体験実習及び特別臨床実習の受入れも積極的に行っています。

研修医・実習生等の受入れは、後年の当院への就職の動機にもなっており、人材確保に資するうえで継続して若手医療人の育成、教育機能の充実に取り組むこととします。

さらに職員については、院外研修等への積極的参加や卒後の資格取得を推奨しているほか、院内ではBLS・ACLSの研修会受講、研究発表会等を実施しています。

また、地域の医療・介護・行政関係者を対象とした研修会、講演会等を企画開催しています。

4 その他特記事項

(2) 薬薬連携

入退院時やかかりつけ医等他施設受診時の処方など、お薬を共通言語として患者さんの情報を共有し、安心できる薬物療法を継続して提供するため、病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の連携を積極的に行っています。

(3) 住民啓発活動

地域住民向けの啓発活動としては、各種疾患・予防医療・高齢者医療・救急医療・感染症拡大防止等に関して理解向上を図るため、地域連携の会・市政報告会・出前講座・市民公開講座・健康フェスタ等を積極的に開催しています。(R2～R4年度はコロナ下で一部休止)

4 その他特記事項

- 第7次阿蘇地域保健医療計画において、当院に求められている機能の充実に努めます。
- 医療機関はもとより介護・福祉関係機関と連携を密にし、地域包括システムの構築に積極的に参画します。
- 地域医療構想調整会議の協議結果を尊重し、当院の改革プランを準拠します。